

- ①スイートコーン
- ②八坂神社
- ③鴨
- ④ひまわり
- ⑤キャベツ
- ⑥華りん
- ⑦竣工石碑
- ⑧太陽農園
- ⑨公民館
- ⑩愛宕神社
- ⑪ソーラーパネル
- ⑫米太郎



①スイートコーン



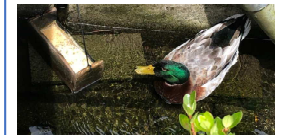
ゴールド、ゴールドラッシュ90を栽培。主にJAに出荷。規格に合わないものは高嶺などの市場に出荷される。その差は自然受粉がうまくいったかどうかで、上手くいったものは先のひげのような部分が茶色くなる。手で折って収穫する。現在は収穫時期。収穫後、機械で質量ごとに分けられ、重さごとに箱詰めされて出荷される。スイートコーン農家をされていて、大変なことは2つ。1つ目はビニールハウスの突風被害。2つ目は、タヌキやハクビシン、カラス、イノシシなどによる被害。彼らはスイートコーンの皮を自分で剥いて食べる。食べられたものは出荷できない。

②八坂神社




海拔23m。奉納されたのは昭和7年12月。記念碑は昭和61年11月に建てられた。草は伸びっぱなしで、所々蜘蛛の巣が張っており、管理されている気配はなかった。八坂神社新築記念碑があり、昭和61年に建て替えられた様子。本殿らしき建物の中には大きなしめ縄があり、天井から掛けられていた。

③鴨



水路で見つけた鴨。逃げられないように水路にバリケードを作られ、その中で鳴きながら挨拶をしてきた。付近の家の方にお話を聞くと、毎日誰かが餌を与えているらしい。害虫駆除や除草に用いる稲作の農法で合鴨農法という稲作の方法があるが、そのために使われていたのだろうか。

④ひまわり



周りがぶどう畑やトマト畑の中、急に現れたひまわり畑。比較的小さめのひまわりだが、絨毯のように一面黄色で、皆が太陽を見つめる姿は綺麗だった。平成22年4月に発生した口蹄疫復興のシンボルとして、同地区では緑肥用ヒマワリを栽培する農家が増加した。

⑤キャベツ



大きな畑一面たくさんのキャベツで埋まっていた。今回はこのキャベツ畑について取材することはできなかったが、次の機会にはどなたが栽培しているもので、どこに出荷されるのか調べたいと思う。周囲から見ると、キャベツ一つ一つが大きく、収穫時期なのではないかと思う。

⑥華りん



日向市に本社を置く、生花祭壇企画および生花小売、造花、ディスプレイ業務、慶弔用生花スタンド販売などを行う会社。都農町にできたのは2019年。今回は作業が忙しく、お話を伺うことはできなかったが、看板の写真は撮らせていただいた。

⑦竣工石碑




火山灰土壌で、かつては降雨時には浸食が激しく、病害虫の発生や作物の品質低下が地元住民の農業意欲を阻害していた。そのため、平成6年に工事を開始、20年に完成した。竣工記念碑にはかつての宮崎県知事、東国原英夫さんの名が刻まれていた。人目のつかない場所にあって、発見できたことは珍しい体験だったかもしれない。

⑧太陽農園




「ハニービーナス」という品種を育てている。ワイン用ではなく食用。今回、お話を聞いた時には作業中で、「摘粒」というぶどうの粒が混み合った部分や生育が悪い小さな果粒を一粒単位で間引いて房をつくる作業を行っていた。7月下旬から9月上旬が収穫時期であり、主に、太陽農園という直売所で販売している。5〜6人で、ご家族で営む。米のホルモンを付け、大きく甘い実をならすためのジベレリン処理と実が大きく育つようにする摘粒の作業が特に大変である。他の畑では「マイハート」「あっぱれ」が「雄室」という種が栽培されている。

⑨公民館



訪れた時には人はいなかったが、周りの植物が整えられていることが伺える。赤い羽根共同募金で設置されたベンチが一つあった。ベンチでの昼食中、12時で鐘の音が鳴った。地域に時間を知らせる鐘の音は公民館のスピーカーからであったことが分かった。

⑩愛宕神社



京都府右京区の総本社を置く神社。ここにあるのは、おそらく、都農神社にある末社の境外社と思われる。火伏せ・防火に霊験のある神社として知られ、また、商売繁盛や縁結びのご利益があるとされている。人が一人参拝できるほどの大きさしかなかったが、きれいに整備されていたため、参拝客はそれなりにいるかと思われる。

⑪ソーラーパネル



この場所だけでなく、様々な場所で大きなソーラーパネルを見かけた。国内でも有数の日照時間と快晴日数を誇る宮崎県であるからこそ、太陽光発電に有利であるといえる。晴れていれば災害時にも安定して供給できる。

⑫米太郎



実習中では3か所のこめ太郎精米所を発見。宮崎県だけでなく、鹿児島県や山形県など全国的に設置されている。地域の方が数人で利用している姿も見受けられた。都農町では稲作が盛んなため、地域の方が利用する機会も多いのだろうか。

資源（良いところ）
流れる水や自然がきれいである。「水がきれいだから美味しい作物が生る」と農家の方は言う。お話しした方々の対応は温かく、作物に対する思いは強かった。それぞれ試行錯誤して、こだわって育てているのだとわかった。

課題・問題

- ① 耳の遠い方とお話しさせてもらって、意思疎通することが難しいと感じた。町内放送など必要な情報は聞き取れているのだろうか。災害時など素早い情報伝達が重要となる緊急事態の状況に不安を覚えた。
- ② 私たちが訪れた八坂神社は蜘蛛の巣や雑草などがあり、管理が行き届いていなかった。「割れ窓理論」があるように、このような施設の存在は景観や治安の悪化につながる可能性がある。
- ③ 私たちが訪れた区域は商業施設やバスなどの公共交通機関、公共施設がほとんどなく、多少なりとも生活に不便があることが予想される。住民の方は慣れているかもしれないが、外部の人がこの地域を訪れたり移住を考える際のネックとなりそうである。